



色彩館に咲く

コトネアスター

Cotoneaster

バラ科シャリントウ属

原産地：主に中国西部～南部

伸びる枝がさざ波のよう

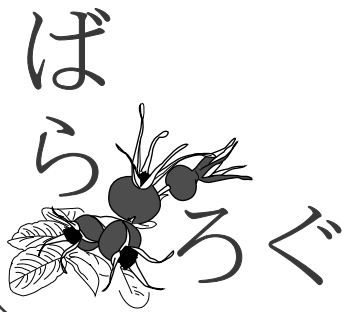
コトネアスターはバラ科の常緑低木で、約 200 種の自生種があります。ヨーロッパに自生するものもありますが、大部分は中国中部から西部、さらにヒマラヤに分布し、森林や岩場に自生しています。日本には自生種はなく、昭和初期頃日本に導入されました。種類によって1～3mの低木になるものから、9mの高さになる小高木のものなど様々なタイプがあります。春から夏にかけて、長く伸ばした枝に小さな花を無数に咲かせます。実は秋に真っ赤に色づく品種のほか、オレンジがかった赤色や白色の実をつける品種もあります。

葉、花、実のどれも楽しむことができることから、イギリスでは庭や鉢に植えるだけでなく、グラウンドカバーとしても広く用いられます。日本でも街路樹の足元や、石垣の上から垂れ下がるように植栽されている場面を見かけることがあるかと思います。外国の公園やガーデンなどではコトネアスターの立ち上がるタイプの品種を生け垣に利用します。そのままの樹形を活かしたり、強く刈り込んでしっかりと形をつくったりと様々です。また匍匐性のあるも



のを建物の壁を登らせ、壁一面を覆ってしまうこともあります。反対に自生種が多く分布している中国では園芸的な利用は少なく、主に薬として利用されていました。学名の由来は葉の形がセイヨウカリンとも呼ばれるマルメロの葉と似ていることからマルメロのラテン語「cotonea (コトネア)」と「～に似ている」の意味を持つ「aster (アステル)」を合わせた言葉から由来しています。

色彩館では「*Cotoneaster salicifolius* 'Autumn Fire' (コトネアスター サリキフォリウス 'オータムファイヤー')」が植栽されています。葉がヤナギの葉のような楕円形で先の尖った形をしており、和名では「ヤナギバシャリントウ」と呼ばれます。日本に初めて導入された、「*Cotoneaster horizontalis* (コトネアスター ホリゾントリス)」と並んで日本に多く普及している種です。夏に白い小さな花を咲かせる常緑低木で、秋に実と一緒に葉が赤く紅葉します。色彩館に植栽されているものも、現在花壇からしなやかな枝を伸ばし徐々に葉と実が色づき始めていますよ。

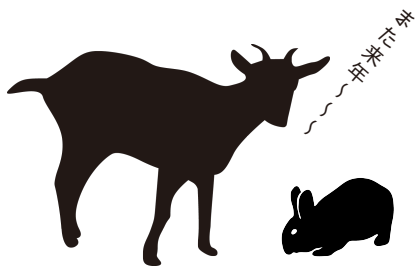
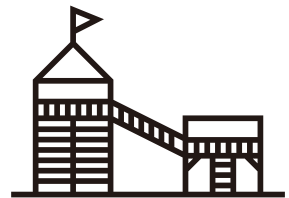


温度が少しずつ下がり始め、紅葉や秋バラの楽しみがやってきますが、この季節は雨が増え病気も発生しやすい時期です。一番多く見られるのが黒星病で、葉が落ち枝だけになっている株を見たことがあるかと思ひます。いくら秋バラが綺麗だといつても葉のない枝だけの状態の花にあまり魅力を感じませんよね。当園では予防薬散布、マルチング、病葉取りなどの対策をして毎年病気と戦っています。そんなことから耐病性に優れている品種を選ぶことが一番安心できるかと思ひます。この時期に限らず一番深刻な病気が根頭がんしゅ病です。当園でもちらほら見かけてはため息をついています。大小様々なコブが発生している場合は疑ひますが、「カルス」の場合は、人でいうカサブタのようなもので平気なため見分けがつきづらひです。専門家にみてもらうのが確実ですが癌種であればまず枯れてしまい、予防法は確立されておらず、木酢液を原液で塗ることが今は最善とされています。ただ癌種は伝染するのでまず残念ながらその株自体を抜くことを勧めます。

いわみざわ公園は 11/3(祝)まで

トリムコース・ふれあい動物広場・
キャンプ場

11/4 より冬季休業いたします。

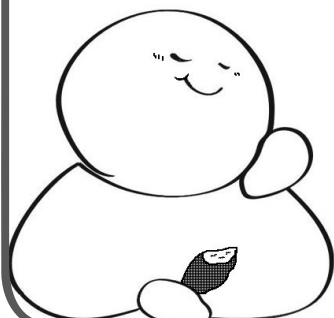


バラ園

11/4 以降はレストラン『PIZZERIA Lucci』のみ営業中。土日祝日の営業となります。

室内公園「色彩館」は冬季も営業。年中無休で開館しております。冬期間もみなさまのお越しをお待ちしております！

焼き芋の話



ほくほく。

日を重ねるごとに、寒さを肌で感じます。そして夕方近くになると、焼き芋屋さんの車がどこからともなく現れる季節です。

甘くてホクホクの焼き芋にするには、さつまいもに含まれているデンプンが、活発に麦芽糖へと変わる 70 度前後の加熱状態を長く保つことがポイントです。調べてみると様々な焼き芋の作り方がありました。電子レンジの解凍モードを利用した方法を始め、炊飯器で炊飯ならめ炊芋をしたり新聞で包んだものをオーブンで加熱したり・・・。いずれも低温でじっくり加熱する事が共通のポイントでした。沢山の調理方法があるのは、ヒトの焼き芋への飽くなき探究心の賜物といえますね。

よしなしごと

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)

第三十一回

ハイブリッドマルチフローラ ローズ

ゴールドフィンチ

Goldfinch

作出国：イギリス

作出者：Paul

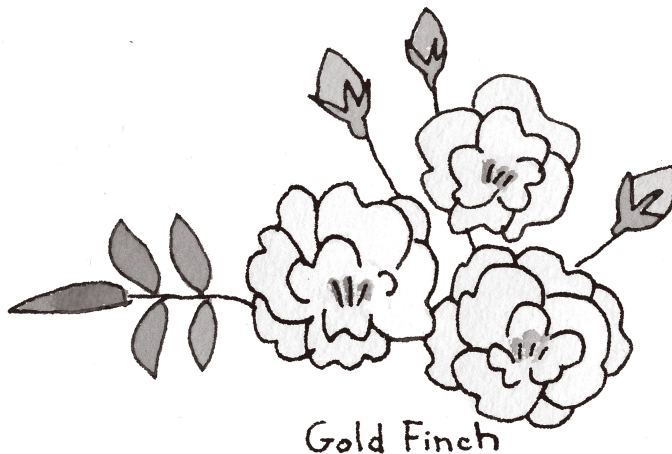
作出年：1907年

ハーディネスゾーン：Z6

一季咲き性

交配：Helene(Hybrid Multiflor

a.Lambert.1897)×Seedling helene



Gold Finch

白地に中心はクリーム黄色のボタンのような小輪の典型的なランブラーの花を大房状に咲かせます。蕾のうちは黄色ですが、咲き進むにつれ乳白色になっていき二色のグラデーションを楽しむことができます。生育は旺盛で枝はしなやかでほとんど棘がないため、アーチやフェンスなどへの誘引は容易です。ノイバラの血を受け継いでいるため、病気知らずなほどの強健性で、香りはオレンジやバナナのような強い香りが漂います。

ゴールドフィンチとは、ゴシキヒワという羽に少し黄色の模様が入ったスズメ目の小鳥のことです。ゴシキヒワは日本ではハイブリッドと呼ばれていて、姿形がよくさえずりが美しいことから世界中で愛玩鳥として飼われています。なぜその名前が付いたかはわかりませんが、黄色いしべでなおかつ大切に可愛がられる品種になるよう名付けられたのかもしれませんがね。

秋バラの季節になぜ一季咲きのバラの紹介な

んだと思われるかもしれませんが、この品種はなんといっても結実性が良いです。つまりは秋にはオレンジ色の可愛らしいローズヒップを見ることができます。花色の深みと香りが特徴の秋バラだけではなく、ローズヒップも楽しめるということを知ってほしくこの品種を選ばせて頂きました。

当園ではこの品種を3株ほど整形形式花壇内のポールに誘引して栽培しています。ともにポールの最上部付近にまで到達し見ごたえがあります。また、この品種を親としたギスレーヌドゥフェリゴンドも当園で栽培しています。本州などではつるバラとして扱われますが、北海道では自然樹形として扱うことができ、良く返り咲く優秀な品種です。花や樹形の雰囲気は似ていますので、そちらも是非ご覧頂きたいです。一番花開花後に雨が続いた影響か、今年は実付きが少し悪いですが秋バラとともにローズヒップも見に是非当園に足を運んでください。

10月の市民園芸講座のご案内



- 10月2日(日) 13:00~15:00
ローズツアー 秋バラが輝くバラ園を散策
無料 定員:40名 講師:バラ園スタッフ
- 10月9日(日) 13:00~15:00
ローズツアー 秋バラが輝くバラ園を散策
無料 定員:40名 講師:バラ園スタッフ
- 10月9日(日) 13:00~15:00 秋植え球根を楽しもう
料金:2,000円 定員:10名
講師:高橋 かつえさん フラワーマスター
- 10月22日(土) 10:00~12:00
ばらゼミ⑧~豪雪地岩見沢で無事に越冬させる方法
無料 定員:40名 講師:工藤 敏博さん ローズグロワー
- 10月30日(日) 13:00~15:00 庭木の冬囲い方法
無料 定員:40名 講師:久保 隆さん 馬淵建設株式会社
- 11月13日(日) 13:00~15:00 観葉植物を楽しもう
無料 定員:40名 講師:椿 豊さん Green Art 百々屋
- 11月20日(日) 13:00~15:00 実をたのしむ盆栽
料金:2,000円 定員:20名 講師:君島 信博さん 草つ月
- 11月26日(土) 13:00~15:00 折りバラを楽しもう 中級
無料 定員:15名 講師:バラ園スタッフ
- 11月27日(日) 13:00~15:00
ローズヒップでクリスマスリースをつくろう
料金:1,000円 定員:5名 講師:バラ園スタッフ